

第188号 発行日 平成24年8月31日

合格通信

今
月
の
名
言

「失敗を恐れない」という姿勢では弱い。「必ず成功させるのだ」という強い意志を持て。

— ジャック・ニクラウス —
(プロゴルファー)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

子どものタイプ別対処法⑥

保護者面談をしているとよく「何でうちの子はやる気を出してくれないのだろう」そう言ってくる親はとても多いのです。けれども子どもはひとりひとり性格が違いますし、これまで育ってきた環境も違います。やる気が出せない理由は様々です。なかなか勉強に入っていない子どもたちには、どのような悩みがあり、どんな問題があるのでしょうか。



手のかからないタイプ

手のかからない子どもとして、平穩無事に毎日を過ごしてきたというタイプのお子さんは、欲しいものを「欲しい」と言ったり、自分で取りに行ったり、行きたいところに行ったり、といったことをなかなかしません。いつも心地のいい位置に満足して、自分の力の範囲でしか、物事をやらないことが多いようです。

そのような性格は、受験校選びにも影響があります。志望校に向かって頑張るというよりも、「いまの自分の力で行ける学校でいい」と考える傾向にあります。素直で手のかからないお子さんですから、他人にはあまり面倒をかけません。どちらかというが目立たない存在です。

しかし、このようなお子さんこそ、よく面倒を見てあげる必要があると思います。

なぜかという、そのままにしておけば何も問題を起こさず、塾でも学校でも先生から見てもいい子なので、チャレンジのために必要な、積極的なアドバイスがもらえないのです。

本当は大きな可能性が眠っているお子さんなのかもしれませんが、なかなか自分からチャンスを得ようとしないし、とてもいい子で手がかからないために、周りの人たちが気にかけて、チャンスを与えてくれることも少ないです。

だからこそ、周りの大人たちが普段からよく気にかけて、見てあげることが必要なのです。

親子でいる時間を増やしてあげてください

このようなタイプの子どもは私たちにとって大きな安らぎです。

けれども、その子のためを思ったら、そんなのんきなことは言ってられません。これから自立して一人で生きていかなければなりません。この子たちがやがては家庭を持ち、人の親となります。自分一人ならばいいけれども、自分の家族を持ったときに、家族のために強く前に出ていくということも必要になってきます。「お宅のお子さんはとてもいい子です」だけではすまされないという気持ちになります。

こんなお子さんを持つお子さんは、そのような安らぎと心配とを同時に持ち合わせて、今までお子さんを見守ってきたことでしょう。そして、ごくまれに「私これが欲しい」などと自分の主張をしてくれると本当にうれしくて、ほっとしたような気持ちになったことでしょう。

そのお子さんが今、高校入試を迎えようとしています。入試本番では、自分一人しかいない。そのような場に立たされます。何とか無事に乗り切ってほしい、とあなたは祈るお思いでしょう。

そんな子に、一歩前に出ることを覚えさせる方法、あとわずかでもいいのでチャレンジする気持ちを持たせる方法、それは

「あなたは特別な存在だ」

ということ、身を持って教えてあげることです。それは簡単です。

お子さんと二人の時間を持つということです。そして、その時間を心から楽しむということです。

～次回につづく。